

まいいぶん 愛知

no.68

特集：今年度の遺跡調査速報

- その 2 -



鶯窯跡（瀬戸市岩屋町・鳥原町）

鶯窯跡は東海環状自動車道建設の事前調査として、平成 10 年度から継続して発掘調査を実施してきました。今年度は、窯体本体とその直下の灰原を発掘調査しました。（詳細は 2 ページに掲載）

発掘調査速報

うぐいす

鶯 窯跡

(瀬戸市岩屋町・鳥原町)



遺跡位置図

鶯窯跡は瀬戸市岩屋町及び鳥原町の、品野盆地から水野川支流の鳥原川沿いに南東奥へ細長くのびた谷状地形の北側段丘に立地しています。この発掘調査は東海環状自動車道建設の事前調査で、国土交通省愛知国道工事事務所より愛知県教育委員会を通じた委託事業として、平成13年11月から平成14年3月にかけて調査面積300㎡を対象として行っています。

今回、古瀬戸後期(14世紀後半から15世紀前半)に操業された窯体1基・工房跡5基・整地面・灰原が見つかりました。

窯体は、標高230m前後の位置につくられていました。煙道部から焚口まで残存しており、残存長7m50cm、最大幅は焼成室で3mです。焼成室内の床面では焼台の配列が確認でき、傾斜が約50度と非常に急勾配です。古瀬戸窯でのこのような事例は初例であり、あざやかな緑色の釉を発色させるためではないかと考えられます。

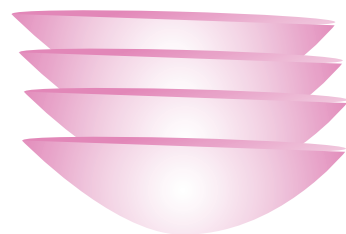
また、工房跡は長軸・短軸が3m50cm～1m50cmの隅丸長方形から方形状に、地山を竪穴状に掘り込んでつくられています。これらの遺構の床には焼土と炭化物層がみられます。

3年間の調査により、鶯窯跡は全体のほぼ80%ほどの範囲を調査したことになります。これまでの調査成果を総合的に検討することにより、古瀬戸後期の窯業生産を具体的に復元しうる資料を提示するのみならず、さらに窯体構造・遺物の特殊性などからこの窯跡自体の特殊性が考えられ、古瀬戸窯のみならず日本窯業史上からも貴重な調査例となるでしょう。(調査研究員 川添和暁)

追記：平成14年3月3日に愛知県陶磁資料館において3年間におよぶ発掘調査の成果発表会が行われ、220名もの方々の出席をいただきました。



遺物出土状況



調査区全景

発掘調査速報

あさひ 朝日遺跡

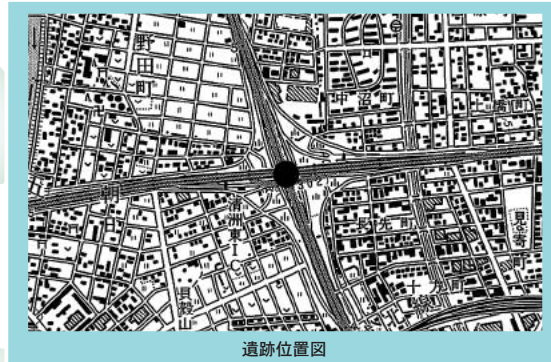
(清洲町、新川町、春日町、名古屋市西区)

朝日遺跡は西春日井郡清洲町を中心に同春日町、新川町、名古屋市西区に広がる東海地方屈指の弥生時代集落で、現在では五条川左岸の後背湿地にあたる地域となっています。名岐道路建設に伴い、平成 10 年度から発掘調査を実施しています。

今年度調査している「北居住区」南の環濠と「谷 A」が交差する 01Ac 区と 01Ad 区において、弥生時代中期中葉の環濠を 8 条、弥生時代中期後葉～弥生時代後期の環濠を 7 条、弥生時代中期中葉の「乱杭」、弥生時代中期後葉の谷 A、土坑 5 基を確認しました。

写真は弥生時代中期中葉～後葉の外側の環濠と弥生時代中期後葉の谷 A を調査したものです。弥生時代中期中葉の時代には「北居住区」環濠の中には逆茂木が伴うものがあり、一番外側の溝から木製の容器が出土しました。また弥生時代中期後葉の環濠にはヤナ状遺構が見つかり、ほぼ同時代の谷 A の直上に堆積している層から戈形木製品が出土しました。

(調査研究員 蔭山誠一)



遺跡位置図

装飾付き木製鉢出土状況

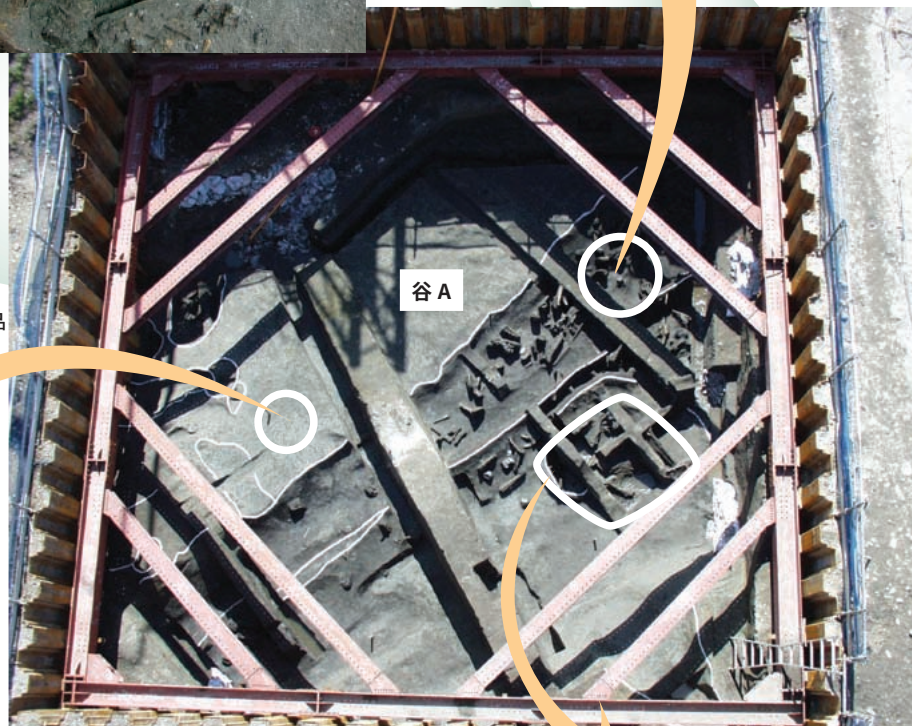


装飾付き木製鉢出土地点



戈形木製品

戈形木製品
出土地点



01Ad 区 2 面全景

「ヤナ状遺構」確認地点

か み は し か 上橋下遺跡の現地説明会 開催される！

平成 14 年 2 月 9 日（安城市にて）

上橋下遺跡は、安城市古井町と川島町に所在し、矢作川右岸の沖積低地に位置しており、すぐ東側に鹿乗川が流れています。遺跡の周辺からは、これまでも弥生時代から古墳時代の遺跡が多数発見されています。上橋下遺跡の発掘調査は、鹿乗川改修工事に伴う事前調査として実施されました。調査面積は 4,200 m² で 2 調査区、南側を A 区、北側を B 区と設定し平成 13 年 9 月～平成 14 年 3 月にかけて実施しました。

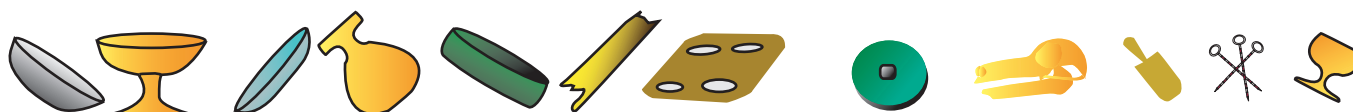
今回の発掘調査の成果として、大きく次の二点があげられます。まず A 区からは、旧河道の東に展開する淵に土抗を掘削した遺構が見つかりました。この中央部二カ所から杭や竹をラン



ダムに打ち込んだ様子が確認されると同時に、多数の墨書土器を含む灰釉系陶器碗、小皿類が見つかりました。このことから、この場所が祭祀の場ではないかと考えられることです。二点目は、B 区から 10 基の方形周溝墓がまとめて検出されており、その形状、規模、出土遺物の違いから分布の特徴が確認できたことです。これはこの地域の弥生時代社会を考える上での重要な情報になります。

これらの成果を踏まえ、出土遺物の展示と合わせ、2 月 9 日に現地説明会を開催した所、約 300 人の方の参加を得ることができました。当日は寒空の元、熱心に耳を傾けてくださいました皆様に対し、説明する担当者も思わず力を入る説明会となりました。

（調査研究員 鈴木 裕）



平成 13 年度に実施された現地説明会

愛知県埋蔵文化財センターでは、平成 13 年度中に右表のとおり合計 6 回の現地説明会および調査成果発表会を開催しました。

このほかにも、地元の方々を対象とした地元説明会も数多く開催することができました。また、弥富町にある愛知県埋蔵文化財センターや各発掘調査現場においても、たくさんの方々の訪問を受けました。

次年度も、埋蔵文化財展をはじめホームページの活用など、愛知県埋蔵文化財センターでは、一般の方々に親しまれるような情報発信を行なってゆきたいと考えております。

遺跡名	開催日	所在地	内 容	参加者
名古屋城三の丸遺跡	8 月 26 日（土）	名古屋市中区	戦国時代も東西に走る溝や、江戸時代の屋敷の区画溝や庭木の跡と思われる土坑、素掘りの井戸などの遺構の解説と出土遺物の展示。	110 名
権現山遺跡	9 月 8 日（土）	岩倉市野寄町他	古墳時代初頭の墳丘墓、古墳時代後期の円墳など。土師器の甕などの出土遺物の展示。	500 名
中洞窯跡	10 月 21 日（日）	瀬戸市上品野町	窯跡 1 基・整地部分（作業空間）・灰原などの遺構の解説や地滑りによる窯体の破壊の説明。出土遺物の展示。	150 名
上橋下遺跡	2 月 9 日（土）	安城市川島町他	鹿乗川旧河道に伴う淵状の祭祀遺構の解説および底から出土した獣骨、墨書土器などの展示。	300 名
鶯窯跡	3 月 3 日（日）	瀬戸市岩屋町他	過去 3 年間の発掘調査成果の報告会。灰釉茶臼や灰釉馬紋皿の展示。	220 名
城山城遺跡	3 月 16 日（土）	東加茂郡足助町	戦国時代の山城に関する遺構の解説および天目茶碗等の出土遺物の展示。	150 名

まいぶん愛知 no.68

発行 平成 14 年 3 月 29 日

編集 （財）愛知県教育サービスセンター

愛知県埋蔵文化財センター

〒498-0017

愛知県海部郡弥富町前ヶ須新田字野方 802-24

TEL.0567-67-4163 FAX.0567-67-3054

http://www.maibun.com

Email:doki@maibun.com